

F 筑紫女学園報 Report

No. 79

2013 February

2013(平成25)年2月1日



座談会
&
対談特集

筑女生が見た!感じた!「絆の力」
震災復興ボランティアと筑女のこころ

その教育、しなやかに、ゆるぎない。
学校法人 筑紫女学園

<http://www.chikushi.ac.jp>

筑女

検索

法海

Hou-Kai

ここに響くことば

03

やり直しのきかない、
誰にも代わるもののない
今日一日。

お 釈迦様のことは、「素行が悪く、心が乱れていて百年生きるよりは、徳行あり思い静かな人が一日生きるほうがすぐれている。(法句経)」とあります。お釈迦様は、人間が生きていくうえで、日々の生活をだらだらと過ごし百年生きることよりも、一日一日を大切に生きて、生きる生き方が優れていると仰いました。この言葉は、決して長く生きることを否定されたことばではありません。人生は長く生きることだけに価値があるのではなく、「今日一日」を如何に生きて充実させるかということに価値があるという意味ではないでしょうか。また、あの日に戻ってもう一度やり直そうと思っても出来ません。そして、「誰にも代わるものがない」というのは、他でもない、私自身にとつての今日「は」、二度とやってこないということなのです。

『仏説無量寿経』というお経に、私たち人間は「結局独りで生まれ独りで死に、独りで来て独りで去るのである。すなわち、それぞ

れの行いによって苦しい世界や楽しい世界に生まれていく。すべては自分自身がそれにあたるのであつて、だれも代わってくれるものはない。」と説かれています。大変誰かが代わってくれるわけでもなく、楽しみや苦しみ、悲しみもそれぞれ自分で引き受けて生きていかなければならないということです。つまりは、自分の人生の責任者として、自分の人生を創っていかねばならないということです。私たちは、一日が大切であると知つていても、無駄に日々を過ごしてしまい、後から振り返つて「ああしておけばよかった」と後悔をしてしまいがちです。ここでもう一度、自分が目標とするものは何か、それに向かつて今自分が何をすべきか、自分自身の生活を見直して、一日一日を大切に生きていくべき方をいきたいと思います。

【中学・高校宗教部】

この内容は、高校・中学のWebサイト「今月のことば」に掲載されています。「今月のことば」とは、毎月はじめ、高校・中学の全校生徒に配布している「ここに響くことば」です。皆さまもぜひご一読ください。【アクセスバナー】 <http://www.chikushi.ac.jp/kotoba/>

Contents

Report No.79
2013 February

Special Issue

P2 **座談会&対談特集** 筑女生が見た! 感じた! 「絆の力」
震災復興ボランティアと筑女のこころ

大学生&高校生合同座談会 大学・短期大学部&高校 有志の皆さん

同行教員対談 中嶋 利昭 校長(中学・高等学校) × 栗山 俊之 准教授(短期大学部 現代教養学科)

ボランティア報告会レポート 支援者/保護者の皆さまへの御礼

Special Topics

P8 **お知らせ** 学園中期計画「筑女プラン2017」がスタートします

CJ People

P9 **やるネ! 筑女生**
・MOS試験で全国5位に! (福宿 ひとみさん/短期大学部・現代教養学科2年)
・全日本フィギュアスケートジュニア選手権の出場を目指して(中島 優里乃さん/中学校2年)

P11 **キャンパス通信** 「国際交流ボランティア」活動レポート
のびのび! 幼稚園 子育て支援の一環として「預り保育」を実施中

P12 **がんばる! クラブ** 中学家庭科部
クラブ活動の成果

P13 **就職の筑女** 株式会社デンソー・セールス 奥寺 さとみさんの巻

P14 **卒業生からの手紙** 久世 由美子さん (高校OG/ロンドンオリンピック日本代表コーチ)
支えびとさん、登場! 崎山 則幸さん (中学・高等学校/宮務事務職員)

CJ Topics

P15 **CJ ホットピックス** ~注目の学園ニュース~
・2年連続20回目の出場「女子第24回全国高等学校駅伝競走大会」
・福島幼稚園教諭、震災被災地の現状を講演

P16 **CJ フォトピックス** ~写真で見る筑女生の「今」~

CJ Academy

P19 **生涯学習のススメ**
・公開講座レポート
・Professors' Works ~先生方の著作紹介~
筑紫女学園からのお知らせ ほか

CJ Information

CJ Reportの読み方

各学校のマークについて

学校ごとに以下のマーク(色分け)を施しています。



上記以外の記事の色分けは任意で行っています。

表紙のこと

今回の表紙は、幼稚園で行われた「親子で竹馬づくり」の間に、2組の親子に登場していただきました。実は写真左側のお父さんも筑女幼稚園の卒園児だそうです。



「CJ Report (筑紫女学園報)」のバックナンバーはWebサイトで!

各学校のサイトからバナーをクリックするだけで本誌のバックナンバーをご覧いただけます。

このバナーが目印!





筑女生が見た! 感じた! 「絆の力」

座談会 & 対談特集

震災復興ボランティアと 筑女のこころ

昨年2月、3月と8月に大学・短期大学の学生、そして10月には高校の生徒が、それぞれ東日本大震災復興に向けたボランティア活動のため、被災地を訪問しました。そこで今回の特集では、この活動に参加した大学生と高校生、および同行教員によるクロストークの場を設け、各人の経験を通じて得た“想い”について語っていただきました。



【写真上】大学生が仮設住宅(岩手県上閉伊郡大槌町)で行った「炊き出しボランティア」の様子。
【写真下】あさひ幼稚園(宮城県本吉郡南三陸町)で園児たちとの交流ボランティアに参加する高校生たち。

Part-1
大学生 & 高校生
合同座談会今の私たちにできることは何なのか？
その答えを一人ひとりが持ち帰りました

「被災地を訪れ、体感し、学んだことを少しでも多くの人に伝えたい!!」という、大学生と高校生の熱い“想い”からスタートした今回の合同座談会企画。さまざまな“気付き”と“感動”でいっぱいの90分となりました。



【大学】昨年2月に参加したメンバー（福岡空港にて）。大学では年間4回に分けて訪問し、計49名の学生が活動しました。

同じ日本で起きた
大災害を他人事とは
思えなくて…

——まず、皆さんが被災地に行ってみようと思われた理由から伺いたのですが。

青木 私は以前、阪神淡路大震災から10年が経った頃に、見捨てられたと感じ、自らの命を絶たれたお年寄りがいらつしやるといってお話を聞いて、今回の震災で同じようなことが起きてほしくないと思ったのがきっかけでした。私に何が出来るかわかりませんが、少しでも役に立ちたいと思って。

三浦 「何かしなければ!」って気持ち、よく分かります。私は今回の震災を海外の研修先で知ったのですが、現地では情報が少ない、「自分の国が大変!福岡は?家族は?」とパニック

になりました。だから、今回のことは決して他人事とは思えなくて、学内でボランティア募集の話聞き、すぐに応募しました。

伊藤 私の場合、中学の海外語学研修旅行（オーストラリア）から帰国した翌日に震災が起きて、その後、ある友だちから「帰って来られて良かったね」って言われ、その時は何気なく「うん、良かった」って答えました。でも、しばらく経ってから、「んっ?良かった?同じ日本の中でこんな大変なことが起きているのに…。これじゃいけない」って思い、参加を決めました。

松崎 私は震災の日が大学入試の後期試験前日だったので、テレビを見ていなかったんです。それで、受験後に大震災のことを知り、すごくショックでした。震災自体ですが、その時、自

分のことだけで精一杯だったのが惜しくて…。

山野 3月11日のことは本当に忘れられません。テレビなどの映像を見ながら「これは本当に現実の出来事なの!」って感じたことを鮮明に覚えています。その後、当時参加していた文化祭の実行委員会でも話し合い、被災地へ募金とメッセージカードを送ることにしました。でも、その時点で私たちにできることが、それぐらいしか思いつけないのがとても悔しかったです。

一歩踏み出すために
保護者を説得

森 私自身も、募金活動くらいしかできないことをすごく悔しいと思っていたので、筑女で今回のような機会をつくっていただけたことにとても感謝しています。

伊藤 そうなんですよね。実は天神で募金活動をしていた時、東北に行つて来たという方から「物資が届かない地域は、逆に必要なものを伝える術もない。現地に行つて本当のことを知つてほしい」と言われたことがありました。その時から、まずはちゃんと知ることから始

めなければ…という想いをずっと抱いていました。

山野 私は高校3年生なので、定期的に大学受験のことを考えると決して余裕はありませんでしたが、高校生の目で見えて、感じて、それを大学生になってから長期的な活動に活かしたいと思っていました。ただ、親は時期のことだけでなく、現地に行くことで精神的なショックを受けて帰ってくるのではないかと、かなり心配していたようです。——そういえば、高校では校長

【今回の座談会参加メンバー】

(後列左より)
松崎 喜子さん
(大学人間科学部初等教育コース2年)
青木 早希さん
(大学短期大学部現代教養学科2年)
三浦 珠実さん
(大学文学部人間福祉学科3年)

(前列左より)
山野 莉花さん(高校3年)
伊藤 友妃さん(高校2年)
森 美月さん(高校1年)





[大学] 炊き出した料理を大槌町の仮設住宅の中で一緒にいただく様子。



[高校] 言葉少なく被災地を視察する生徒たち(石巻市立門脇小学校前)。



[大学] 釜石市箱崎地区での瓦礫撤去ボランティア。



[高校] 肉体的よりも精神的な辛さを感じた瓦礫撤去ボランティア。



[大学] 被災書籍を一冊一冊丁寧に清掃。



[高校] 信頼して駆け寄る子どもを抱きしめる生徒(南三陸町「あさひ幼稚園」)。



[高校] 多くの方がお亡くなりになった南三陸町の防災庁舎前で手を合わせる生徒たち。

先生のお考えで、保護者からの手紙を現地で渡されたそうです。すね。

森 私の手紙には「自分でお金を出してでも(今回の研修に参加したいと言った、あなたの気持ちを楽しそうに思う」と書いてありました。

伊藤 うちは「自分で感じとって、みんなと現地でいろんなことを考えておいで」って……。

山野 私への手紙には「正直、行かせるかどうか迷った」って書いてありました。

松崎 私のところも「本当に危なくないの?」って。大学生でさえそうなんだから、高校生ならなおさらだよ。

青木 私も母から「自分のことでもできてないのに!」って、最初は反対されました(苦笑)。

一同 あ。それ言われた(笑)。

青木 でも、ここにいただけじゃ何も変わらないって想いで说得し、最後は認めてもらいました。

報道ではピンと

来なかった

現実を目の前にして

——実際、現地に行ってみて、それまでに報道から伝わってきた話と比べてどうでしたか?

山野 私たちは南三陸町に行っただんですが、何もなさすぎて、信じられない光景が広がっていました。自分がどう思っているのかさえ分からなくなり、ただ「ああ……」という声が出るだけ。

伊藤 瓦礫の中からお茶碗など、日常使っていたものを見つけて、「ちよっと前までは、ここに生活があったんだな」って思うと切なかったです。

青木 私も瓦礫の仕分け作業をしながら同じことを考えていました。

皆さんはどのような活動をされたんですか?

青木 私たちは瓦礫仕分けのほか、気がかり世帯に手作りのお弁当を届けたり、炊き出しや被災書籍の清掃を行いました。

森 高校では、2泊3日の研修という形で伺ったので、ボランティア自体は1日足らずでしたが、瓦礫仕分け以外に、現地の幼稚園も訪問してきました。

現地を目の当たりにしたことで、帰ってきてからテレビで報道される被災者の大変さに、リアリティーを感じるようになりました。

松崎 現地では心のケアが大切だと強く思いました。家族を

亡くしたという方と話しながら、もし自分のことだったら……と思うと、驚く言葉が見つからなかったです。

千年に一度の震災は、千年に一度の学びの場

山野 幼稚園訪問での話ですが、目に見えないものに怯えている子どもたちがいるんです。気持ち不安定になつて突然泣き出す子がいたり、水道から流れ出る水を怖がる子がいたり……普通に遊んでいるとみんな笑っているけれど、笑顔の裏にあるものを忘れちゃいけないと思いました。

伊藤 それなのに、皆さん「ありがとう」って言うてくださるでしょ? 出会った方々は自分もそうとても心が強くて、自分もそう



なりたいたいと思いました。私たちが宿泊した「ホテル観洋」の女将さんは、ご自分も被災されているのに、地域復興のために懸命だし、ホテルスタッフの方も、そんな女将さんに「ついていきます」って。

山野 正直言えば、被災地の皆さんのとても辛い経験から学ぶことに出発前は、とまどいがありました。でも今は、これから行動していくことが私たちからの恩返しだと思っています。私はこの先、大学で心のケアをきちんと学んで、また東北へ行くつもりです。

伊藤 研修を終えて家に帰ってきた時、いつも見慣れた風景なのになぜか涙が溢れてきました。学校に行けば教室もあるし友だちもいる。私たちは恵まれているなと思っています。私は



【大学】地元のボランティア団体「SAVE IWATE (セーブイワテ)」の皆さんと一緒に。

今回、被災地で地域の人々の繋がりやの素晴らしさを実感することができました。こうした経験を活かして、この先、私は地域を繋げる仕事に就きたいと思っています。

三浦 福岡でも被災地と同じ時間が流れているのに、私には家があり、家族がいて、帰る場所がある。こういう恵まれた環境を本当に大切にしたいですね。

森 私も将来は、誰かのために役立つ仕事に就きたいと思うようになりました。

青木 原発についても、これまでも「なんとなく必要なんだろうなあ」くらいの気持ちで受け入れていましたが、地域社会への影響も考えながら、真剣に議論しなければいけないと思うようになりました。



【高校】仙台別院ボランティアセンターで夜のミーティングに参加。

松崎 当たり前の日常を生きられる幸せを感じながら、自分のことも、まわりの人も大切にしたいって、今は強く思っています。

伊藤 実際に見て、感じてきた私たちが伝えることって大事だと思えます。さっきお話ししたホテルの女将さんからは「見たままを伝えてね」との言葉を、千年に一度の学びの場にしたい」とも言っていました。

青木 それと今回、私たちが被災地に行けたのは、まわりの人の支えがあつたこと。それを忘れてはいけないと思えます。現地に救援物資が届いても

仕分けする人がいないと役に立たない。いろいろなことを進めるにはまわりの人の力あつてこそなんだなど。改めていろいろなことに感謝できる自分になれたような気がします。

松崎 そういう意味でも、この先も自分ができる限りの支援を続けていきたいと心から思っています。

山野 人の繋がりとということ言えば、私たちは最終日に、西本願寺仙台別院を訪問したのですが、そこに卒業生の方が駆け付けてくださり、交流させていただきました。世代は違いますが、感じ、気持ち温かくなり、嬉しかったです。

——そこまで考えられたことは、この先きっと、大きな成長の糧になるはずですよ。

三浦 1回目の訪問で出会った時は体調を崩されていた高齢の方が、2回目は何った時は自らボランティアとして活動されていました。「また来てくれて、ありがとう」と言ってくれた笑顔思い出したときに、今後も被災地の方々と繋がりが続いていると思います。まだまだ、これからです。

【2012年11月17日／
警固キャンパスにて】

各校それぞれに「被災地ボランティア活動報告会」を開催

今回の被災地での経験を経て、学生や生徒は、自分たちなりに「伝える役割」を強く感じて帰福しました。そこで両校ではそれぞれ、現地で「見て、聴いて、感じた」ことを伝えるべく、報告会を催しました。

まずは10月2日(火)、太宰府キャンパス(6号館6201教室)にて開催された大学・短期大学部の「震災ボランティア学内報告会」。活動に参加してきた2班から代表者各2名が発表。自らの目で見た被災地の現状に衝撃を受けながらも、

「微力だが無力ではないと感じた」といった感想や「現地の人から「次の人へバトンを渡す気持ちで」と言われ、私たちも今回受け取ったバトンを次の人へと渡さなければ…」との抱負も聞かれました。



大学・短期大学部での報告会の様子。

方、11月1日(木)に中学・高等学校の講堂で行われた「東北ボランティア研修報告会」には多くの保護者も参加。現地での活動の様子がフォトムービーと共に生徒たちの口から語られました。その中には、今回の経験を経たことで今まで以上に深まった両親やまわりの人への感謝や自らの将来を重ね合わせた言葉も聞かれ、そんな生徒たちの言葉に、幾度となくハンカチで目頭を押さえる保護者も。彼女たちの胸を打つ発表に、復興支援への想いを新たに

した方も多かったのではないのでしょうか。



高校での報告会の様子。



高校の一連の活動についてはWebサイトでも紹介していますので、ぜひご覧ください。
<http://www.chikushi.ac.jp/hsc/h/>

学生と生徒の姿に映る「建学の精神」に 大きな喜びと誇りを感じて。

今回のボランティアや研修を通して将来への想いを新たにした学生・生徒たち。その陰には、被災地の復興はもちろん、子どもたちに被災地から何かを学びとってもらいたいと願う教職員の高い想いがありました。ここからは、その中心となって今回の活動を企画・推進した中嶋利昭校長（中学校・高等学校）と栗山俊之准教授（大学・短期大学部）に、これまでの経緯と活動を振り返っての想い、さらに今後に向けての展望について伺いました。



「学生や生徒が変わる瞬間に立ち会えたことが何よりの喜び」と熱く語る中嶋校長(左)と栗山准教授(右)。

被災地に寄せる心を 一歩踏み出した活動へ

中嶋 大学・短期大学部は一週間の滞在のほとんどをボランティア活動しながら過ごされたとか。体調を崩す学生はいませんでしたか？

栗山 はい、現地のボランティアコーディネーターの方と綿密に相談しながら、心身ともにオーバーワークにならないようなプログラムを組みましたので大丈夫でした。

中嶋 それは良かった。高校生の場合、体力が心配で、ボランティア活動を九日させることはできませんでした。高校の場合、研修という位置付けでの活動でしたので、大学生とはスタンスも異なりますし……。

栗山 ボランティア活動を通して多くのことを学ぶ点は同じですが、大学では学生自身も自主的な活動を引き出したという想いがありました。

中嶋 大学での活動のキッカケは何だったんでしょう？

栗山 実は震災の一週間後に大学の卒業式があり、そこで募金活動を行ったんです。そして、みるみる募金箱が重くなり、学生たちは「涙が出そうになった」と言っていました。「みんなが被災地のために何かしたいと考えている。人間って素晴らしい」と。人の役に立ちたいという想いをより強く抱いたようです。

中嶋 高校でも震災直後から街頭募金に立つなど、生徒たちは被災地に心を寄せていまし

お知らせ

今年度の震災ボランティア活動報告を冊子にまとめました

今年度、震災ボランティア活動を実施した両校ではこのたび、報告会を発展させた形で、報告書(冊子)を作成しています。(写真左=大学・短期大学部版/写真右=高校版)。

本冊子に関するお問い合わせ等は、以下にお願い申し上げます。



- 大学・短期大学部版: 実習支援センター
TEL 092(925)9578
- 高校版: 中高事務室 TEL 092(771)3066

た。その経験を通して、「さらに一歩前に踏み出した活動を」と切望するようになったという話も聞きました。そういう意味では大学生も高校生もキッカケは同じようですね。

建学の精神をベースに 学びや成長、 新たな視点も

中嶋 正直、震災直後は被災地を学びの「環」として高校生が訪れていいのかという葛藤が私自身にもありました。しかし、今回の研修でも宿泊先にさせていただいた南三陸町「ホテル観洋」の女将さんは、「被災地のために何かしなければいけないと気負い過ぎず、学んだことをそれぞれの人生に役立てては

しい」と言ってくれました。事実、生徒たちは日々劇的に変わりましたね。行く前、参加申し込みの際に、数行の箇条書きでしか参加したい理由を書けなかったような生徒が、現地では何かを感じ、溢れるような感情を言葉に記し、帰ってきてからも何枚もの振り返りレポートを届けてくれたんですよ。

栗山 私も学生たちには行く前から驚かされました。名刺のようなものを準備しておくように指示したら、学生たちはすでに、自分の住所を書いたハガキを用意していたんです。それによって、自分たちが福岡に戻ってきてからも継続して繋がっていきたいというメッセージの表われなんです。私はそんな学生たちを誇りに思いました。



中嶋 素晴らしいですね。高校では仙台から同行していただいた看護師の方が生徒たちの言動を見聞きして「こんな高校生がまだ日本にいたんですね」と。私も誇らしく思いました。

栗山 学生たちは、常に被災者の方々のお話を親身に聞き、静かにうなずいているんですよ。「どんな教育をされているんですか」と何人かの方から尋ねられました。特に改めて事前指導をしていたわけでもなかったの、そこで改めて、本学の建学の精神や宗教教育が活かしていることを実感できました。

中嶋 同感です。自ら考え、行動し、他者を想い、さまざまな命を見つめて感謝する、私たちが校訓に掲げる「自律・和！感謝」という3つの言葉が今回のボランティア活動でもベースになっていますね。実は生徒には内緒で今回参加する生徒の



【高校】現地の農産物を食べたり、お土産を買ったりすることも立派な復興支援のひとつ。写真は高校生たちがボランティア活動後「さんさん市場」(南三陸町)で昼食中のひとコマ。

保護者に「我が子に宛てた手紙」を書いていただいたのですが、当たり前のような日々が当たり前ではないことを被災地で感じ取った生徒たちは、自然と保護者への感謝の気持ちを新たにしようです。そういう意味でも、被災地には人の心を動かす「場の力」があると思うんですよ。

栗山 その力によって、社会一般の尺度に限らない、もの見方の捉え方も芽生えるのでしょうね。そうした意味でも今回の活動に参加したことでこの先、小さくても社会のために貢献し、キラリと輝いている会社を就職先にと考える学生も出てくるのではないかと感じています。

継続を期してそれぞれに次なるステップへ

中嶋 今回の経験は高校生にとつても大学生にとつても、自身の生き方や在り方を見直す大きな契機になったと思いますね。

栗山 今後、大学では学生主体のボランティアネットを立ち上げる構想を進めたいと思っています。学生NPOとして、建学の精神に基づいた筑女らしい活動の実現を目指すというものです。

中嶋 高校では今回の経験を踏まえ、来年度から修学旅行のコースの一つとして、被災地訪問を加えることにしました。今回の結果からも、将来の自分を見出せずにいる生徒にとつて、進路実現のための動機づけになるのではないかと考えています。

栗山 学園では今年、さまざまな立場の教職員の皆さんにも参加してほしいという願いを込めて、「ボランティア休暇」が制度化されましたね。こうした制度を活用していただきながら、今後はさらに全学的な活動に繋げていきたいと考えています。

中嶋 一番大切なのは継続です。からね。続けるといえば、今回、西本願寺仙台別院で朝のお勤めを行ったのですが、日々仏教が身近だからか、お経をそらんじている生徒も少なくありませんでした。みんなの声や響く中に身を置き、私自身、とても感動しました。こうした経験を通じて、学生も生徒も一人ひとりが輝き始めてほしい。これからも筑女らしく、学生や生徒たちの学びの場、自主性を引き出す場を創り出していきましょう。

【2012年11月12日／

誓園キャンパスにて】

ご協力ありがとうございました

大学・短期大学部 「筑女ボランティアネット」への支援金御礼

筑紫女学園大学・短期大学部では、「筑女ボランティアネット」という組織を学内に立ち上げ、学生によるボランティア活動を積極的に支援しています。

今年度もこれまでに、合計3,111,163円(平成24年12月31日現在)の支援金が多くの皆様から寄せられ、今回の被災地への学生派遣旅費などに活用させていただいています。この場をお借りして、誌上お礼申し上げます。ありがとうございました。今後も同ネットの活動の趣旨をお汲み取りいただき、一人でも多くの皆様のご支援を引き続きよろしくお願いいたします。

【お問合せ先】

筑女ボランティアネット(事務局=大学実習支援センター)
☎092(925)9578

【支援金振込先】

●ゆうちょ銀行 ●店名/七四八(読み:ナナヨンハチ)
●店番/748 ●普通預金/0793709 筑女ボランティアネット
※お振込みの前に左記問い合わせ先へご一報いただくと幸いです

中学・高等学校

保護者の皆様へ ～ 今回の活動にあたってのお礼 ～

校長 中嶋 利昭

学校内外から高い評価をいただきながら、無事終えることができたこの度の「東北ボランティア研修旅行」。計画から実行、報告という一連の過程を振り返り今思うことは、この事業は保護者の皆様のご理解とご協力がなければ実現できなかったということです。後援会からの旅費補助はもちろんのこと、父母教師会による紫苑祭バザーの売り上げの一部は、生徒の募金とともに義援金として持参させていただきました。

子どもたちの参加決意を後押ししていただいた保護者、研修報告会で力強く拍手やお声かけをしていただいた保護者、そして私たちの思いを終始温かく見守っていただいた多くの保護者の皆様に、心から感謝申し上げます。ありがとうございました。

お知らせ 創立110周年のあるべき姿を目指して 学園中期計画「筑女プラン2017」がスタートします



筑紫女学園では、1907年(明治40年)の学園創設以来、100年以上に渡り受け継いできた「建学の精神」を再確認し、急激に変化を遂げる社会の中で、着実に歩みを進めるための「方向性」と「(具体的な)課題意識」の共有を目的に、平成22年度から学園ブランド意識向上に向けた取り組みを開始しています。

この度の中期計画「筑女プラン2017」は、5年後の「学園創立110周年」に向け暫定スタートを切りながら、学園内でさらなる検討を加え、来年度(平成25年度)から正式スタートする、社会(地域)およびステークホルダーの皆様に向けた、筑女からの「メッセージ」です。

学園として、さらには各学校ごとの「使命(ミッション)」「将来ビジョン(長期・短期)」を明確にした上で構築した12項目の「ブランド展開実施基本方針」に基づき、合計124に渡る施策を具体的な「アクションプラン(行動計画)」として掲げています。

今後の「CJ Report」(本誌)でも、進捗状況などを随時発信していきますので、引き続き皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

◆「筑女プラン2017」の全体像



ブランド展開実施基本方針

<p>【9項目34施策】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 宗教教育 ・建学の精神の教職員による共通認識を持つための方策検討、実施... 2 女子教育 ・各学校が行う女子教育の教職員による共通認識を持つための方策検討、実施... 3 国際交流 ・各学校の国際交流推進を連携サポート... 4 広報・入学定員確保 ・学園内ロイヤリティ向上に向けた具体的な取り組み実行(学内報など) ・筑女プラン進捗状況の学園内外向け周知 ・各学校と連携したメディアミックス展開... 5 社会貢献 ・各学校の社会貢献推進を連携サポート... 6 施設・設備 ・中長期施設設備計画の主体的策定 ・施設設備の省エネルギー化推進 ・両キャンパス整備構想の推進、実行 ・幼稚園新園舎建設/学園研修施設等の見直し... 7 管理運営 ・学園組織におけるリーダーシップ強化 ・ガバナンス体制確立に向けた監査体制強化 ・教職員出張制度の見直し、実行 ・メンタルヘルス支援の推進、実施 ・教職員人事評価制度の確立、実行 ・学園危機管理体制の主体的策定... 8 財務 ・中長期財務計画の主体的策定 ・事業会社の設立 ・納付金及び周辺会計の見直し... 9 新規事業 ・大学・短期大学部の改組 ・保育所事業への参画 ・創立110周年記念事業の推進 	<p>【11項目47施策】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 宗教教育 ・建学の精神の共通認識 ・仏教を学ぶ拠点づくり... 2 女子教育 ・特性の明確化、意識的な活用... 3 教育 ・FD、授業改善活動の推進 ・学習支援センター設置 ・学生ポートフォリオの運用... 4 学生支援 ・SPに基づく具体的な活動実施 ・就職企業、行政ネットワーク構築... 5 国際交流 ・国際交流プログラムの確立 ・留学生の派遣、受入強化... 6 研究・研修 ・研究助成制度改革/特色ある研究活動の指定 ・外部資金獲得に向けた強化策... 7 広報・入学定員確保 ・メディアミックス広報活動の最適化 ・APIに基づく、適正な入学者選抜検証... 8 社会貢献 ・「社会型」公開講座などによる社会連携 ・専門相談機能における行政連携... 9 施設・設備 ・中長期施設設備計画の策定 ・施設設備の省エネルギー化推進... 10 管理運営 ・新たな事務組織構築/危機管理体制の確立 ・学長のリーダーシップ発揮に向けた運営体制... 11 財務 ・収入多元化に向けた検討と実施 ・適正な人件費/経費構成の確立... 	<p>【11項目24施策】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 宗教教育 ・建学の精神の共通認識 ・礼拝や宗教行事等での実践、改善... 2 女子教育 ・先進事例の研究、調査、確立... 3 教育 ・校内外の研修参加奨励 ・新教育課程への対応 ・コース編成など、社会ニーズとの整合性... 4 生徒支援 ・生徒の「自己指導能力」向上に向けた既存活動の意義づけ等確認、改善 ・キャリア教育のあり方を含めた、体系的な進路指導体制の強化... 5 国際交流 ・既存の海外研修等の充実 ・留学生受入体制、姉妹校交流の方向性確認... 6 研究・研修 ・教職員と生徒の資質向上 7 広報・入学定員確保 ・卒業生(同窓会)を含めた学内広報の徹底 ・広報ツール、訪問活動のより効果的な活用... 8 社会貢献 ・社会活動や国際貢献活動における生徒の自主的取り組みを支援... 9 施設・設備 ・中長期施設設備計画の策定 ・施設設備の省エネルギー化推進... 10 管理運営 ・適正な運営体制の構築 ・保育、教育総合施設としての適正規模の策定 ・長期休業期間の活用... 11 財務 ・納付金以外の収入向上 ・経費支出の適正化/関連団体業務見直し... 	<p>【11項目19施策】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 宗教教育 ・園の宗教教育に関する教職員の共通認識 ・乳児に関する保育内容のあり方... 2 女子教育 ・共学における男女の理解教育... 3 教育 ・附属幼稚園教職員必携の完成、共有 ・龍谷総合学園加盟園との連携促進 ・乳児に関する保育内容の確立... 4 園児支援 ・卒園児、未就園児とのネットワーク構築... 5 国際交流 ・子どもたちの異文化理解を促進する取り組み... 6 研究・研修 ・教職員の資質向上... 7 広報・入学定員確保 ・広報手段、内容の検討 ・附属幼稚園教職員必携の広報... 8 社会貢献 ・2歳児教室の充実 ・子育て支援のあり方検証... 9 施設・設備 ・自然環境に配慮した新園舎の建設 ・施設設備の省エネルギー化の推進... 10 管理運営 ・適正な運営体制の構築 ・保育、教育総合施設としての適正規模の策定 ・長期休業期間の活用... 11 財務 ・定員確保による財務基盤強化 ・補助金等、外部財源の新たな確保...
---	--	---	---

★「筑女プラン2017」スタート以降、各学校・部署ごとに「単年度事業計画」「予算」を組み立てるシステムに移行

具体的アクションプラン(行動計画) ◆平成24年5月11日暫定スタート ◆平成25年4月1日正式スタート



MOS試験の学内表彰式の様子。



世界各国の学生が参加する「MOS世界学生大会」。日本からも世界チャンピオンが誕生しています。

The Wonderful Behavior of CJ-Students

やるネ! 筑女生

勉強をはじめ、さまざまなことに積極的に取り組む筑女生の活躍ぶりを紹介するこのコーナー。今回はパソコンスキルの高さを証明する「MOS試験」で全国5位入賞を果たした短期大学生と、フィギュアスケート選手としてがんばっている中学生が登場していただきました。

がんばるCJをピックアップ!



01 【大・短】パソコンスキルの高さを証明する資格試験で全国5位に入賞!

福岡ひとみさん(短期大学部/現代教養学科2年)

**充実した学生生活を送りたい
資格取得に挑戦!**

入学当初から私は、大学の講義だけでなく、学内の活動や資格の取得を目指し、充実した学生生活を送ることを目標にしていました。そして、さまざまな資格を取得しましたが、特に力を入れたものは、「MOS(マイクロソフト・オフィススペシャリスト)試験」

でした。MOS試験というのは、「Wordの文書を作成したり、Excelのグラフや表計算を作成する試験ではありません。パソコンソフトの機能を使いこなし、いかに早く正確に作業を効率よく進めることが出来るのかを測る試験です。

私は独学でMOS試験を勉強しましたが、満点合格を目指して練習を積み重ねました。さらに、学内にある「文字起こしボランティア」

にも入り、ブライントタッチの練習も兼ねてボランティア活動にも取り組みました。文字起こしは、DVDなどの音声を文字に起こす作業なので、ブライントタッチの技術を磨くにはとても良い経験になりました。

その結果「PowerPoint 2007」の試験で満点を取り、2012年日本大会の大学部門PowerPointの部で5位に入賞することができました。入賞することができたのも、大学内の充実したパソコン環境やパソコンに関連したボランティア活動のおかげだと思います。自らの勉強も大事ですが、そのためには整った環境も大切です。実際、MOS試験を勉強する際は、昼休みや講義がない時間を活かして、コンピュータ自習室で勉強し、空き時間も有効に使うことが出来たので、筑女のパソコン環境はとても助かりました。

具体的な目標を立て、集中的に取り組んだことが好結果に繋がりました

これまでの活動を通して学んだことは、少しでも興味を持ったことは学生時代に積極的に取り組むということだと思います。今回のMOS試験においても、いつか受験しようと考えているのではなく、今月中にこの試験に合格するといった目標を立て、実行することが非常に大切なことだと思いました。目標を明確にし、積極的に練習を重ねたことで、全ての科目を短期間で合格することが出来たのだと思います。

就職活動の際は、履歴書の資格欄に「MOS試験取得」と書いた上、面接での自己アピール

にも生かすことが出来、無事に情報・通信系の企業に内定を頂きました。現在は卒業までに「Word」「Excel」「Access」「PowerPoint」の4つの科目を全て取得した証明である「マイクロソフトオフィスマスター」の資格取得を目標に勉強しています。今年から社会人となるため、少しでもパソコンスキルを磨き、公私ともに活かしていきたいです。



文字起こしボランティアをはじめ、パソコンテイクなど、さまざまなボランティアサークルが活動しています。



今回の撮影は中島さんの練習場である飯塚アイスパレスで敢行。「背が伸びて、昨年の衣装が着られなくなってしまったので」と、新調した衣装でポーズを決めてもらいました。

02

【中学校】

「あきらめない心」を胸に フィギュアスケートに取り組んでいます

中島 優里乃さん(中学校2年)

小学校時代から

忙しい日々…。

でも、体験入学が楽しくて

私

は、小学校二年生からフィギュアスケートを習い始めました。小さい頃からフィギュアスケートの大会を見に行き、「楽しそうだな」「あんなふうに滑ってみたな」と思ったことがきっかけでした。初めは、氷に立つこともできず、何度も転び、物に

つかまりながら練習を重ね、少しずつ滑る感覚を身に付けていきました。今は、3回転(トリプル)ジャンプまで飛べるようになりました。

ここまでできるようになるために、たくさん経験をしてきました。小学生の頃は、朝4時に起床して朝の練習に参加して、車の中で朝食を取りながら学校に行き、放課後は自分達で練習リンクまで行き、夕方の練習をして

感じることもあります。

スケートだけじゃなく

学校生活も充実させます！

フ

ィギュアスケートの練習を通して私が学んだことは、「あきらめない心」です。大会は一発勝負で、いつも自分が思っている演技が出来るとは限りません。その日のコンディションやジャンプの調子によって、最高の演技

が出来ることもあれば、逆に思うような演技が出来ないこともあります。力が入りすぎて失敗したり、緊張しすぎて集中力が途切れたら、ミスを繰り返して演技中に泣きたくなることも度々です。しかし、そこであきらめてしまっただけでは、次の大会で良い演技をすることはできません。そして、失敗を乗り越え完璧な演技ができたときには、きちんと結果がついてきました。2010年全

九州フィギュアスケート選手権大会で2位、2011年中四国九州フィギュアスケート選手権大会では3位、第15回全日本フィギュアスケートノービス選手権大会では17位、また、全国中学校スケート大会に筑女生として参加することもできました。出場前に中学のクラスメイトから応援してもらい、とても励みになりました。



表現力をつけるために、陸上でのトレーニングやバレエもやっています。



2011年の「中四国九州フィギュアスケート選手権大会」で3位に入賞した中島さん(写真右)。

九州フィギュアスケート選手権大会で2位、2011年中四国九州フィギュアスケート選手権大会では3位、第15回全日本フィギュアスケートノービス選手権大会では17位、また、全国中学校スケート大会に筑女生として参加することもできました。出場前に中学のクラスメイトから応援してもらい、とても励みになりました。

私の今の課題は、全日本フィギュアスケートジュニア選手権に出場すること、志望する大学へ進学することです。この2つのことを目指して、中学でも友人関係を大切に、楽しみ、文化祭や体育祭などの行事にも積極的に取り組み、充実した学校生活を送っていこうと思います。





幼稚園

The Report of Dazaifu Campus

キャンパス 通信

vol. 03

大学・短期大学部

大学・短期大学部でアクティブに活動する学生たちの姿を紹介するこのコーナー。今回は、学内で「国際交流ボランティア」スタッフとしてがんばる学生さんからのレポートです。



国際交流ボランティアの登録数は、現在約70名。



中国語と英語が飛び交う
インターナショナルカフェの様子。

外国人の方にとっても、福岡を 住みやすい街にすることを目指して

下園 敏子さん(大学/文学部アジア文化学科4年)

私 たち「国際交流ボランティア」は、毎年ニューヨークから来る交換留学生の歓迎パーティーやお別れパーティーの開催、また外国人の方の日本語習得を目的としたボランティアへの参加など、国際交流に関する様々なイベントを企画しています。

その中でも、一年を通して活動しているものがあります。それは「インターナショナルカフェ」です。私は以前、中国に半年間留学していました。中国語を話せるようになったのですが、日本に帰国しても中国人の友達はいませんでした。そこで、大学内で行っているインターナショナルカフェに参加しました。インターナショナルカフェとは、毎週1回、国際交流センターで開かれている活動で、外国人の方と日本語以外を使って話ができる場です。この活動は、昨年の前期から始まり、現在、フランス、中国、インドネシア、アフリカ出身の方たちと、約2時間英語と中

国語で日常会話をします。ニューヨークから交換留学生が来た時も、留学生はインターナショナルカフェに参加して、様々な話題で盛り上がりました。

私たちにとって、この活動はすごく魅力的な場です。私はもともと英語を勉強していて、話せるのですが、中国語と英語がどちらも話せて、勉強できる場は他に探しても見つからないと思います。しかし、ここでは大学内でどちらでもできるのです。

このカフェで話をする中で、多くのことを学びます。言語や習慣もそうなのですが、おすすめのレストランや、お店なども知ることができます。また、他の国の人たちの考え方や、私自身が日本や地元のことについて、あまり知らないことにも気がきました。これからも、国際交流ボランティアの活動を通して、福岡をより外国人の方にとって住みやすい街にしていきたいと思っています。

のびのび! 幼稚園

Vol.02

子育て支援の一環として、預り保育「たけのこ」を運営中

平成18年度から、子育て支援の一環としてスタートした「たけのこ」は、在園の子どもたちを保育後にお預りするシステムで、定員は最大15名、17時まで行っています。

まず一番考えることは、「居心地の良さ」。幼稚園にいる時間が長くなっても、まるで家にいるかのような安心感のなか、少人数で温かい時間を過ごせるように心がけています。

そんな「たけのこ」にやってくる子どもたちの一番のお楽しみは、なんといってもおやつ時間!!今までに出したおやつは、クッキー、白玉だんご、クレープ、パフェなど、

デザート屋さん顔負けのメニューをはじめ、時にはたこ焼きなどボリューム満点のおやつが出ることも!!これらのおやつは、市販のものではなく、すべて子どもたちと一緒に作る手作りおやつなんです。子どもたちは、おやつ作りのどこの過程に自分の手が加わると、一層おいしく楽しく、みんなで食べることができているな～と実感しています。子どもたちの笑顔がたくさん見られる「たけのこ」では、子どもとの距離がぐっと縮まり、ゆったりほのほのとした、とても素敵な時間が流れています。

【幼稚園教頭 小野山佳代】



みんなで作るおやつは、楽しくておいしいな～。

がんばる! クラブ

vol.19

中学校／家庭科部

それぞれの活動に充実した時を重ねる生徒たちのようすをお伝えするこのコーナー。
今回は、中学校で一、二を争うほど人気が高い家庭科部が活動する調理教室におじゃましました。



部員構成

・3年生 21人
・2年生 25人
・1年生 29人
計 75人

主な活動

調理実習、被服実習、
小物制作など
※多くの部員が体育祭で
衣装係を担当



指導者インタビュー

手づくりを通して、感謝の気持ちを育てほしい

「手づくりの大切さを知ってほしい」——それが一番の願いです。生徒には、自分自身でさまざまなものを手づくりする中で、ものを大切にする気持ち、ものづくりに関わる方々への感謝の気持ちを育ててほしいと思っています。その気持ちが生徒自身や周りの人々の気持ちも豊かにしてくれることと思います。手づくりの楽しさも感じてほしいですね。生徒自身が「作りたい」と思うものを完成させるまで指導は大変ですが、達成感に輝く笑顔が私たちの元気の源です。

顧問／大城戸 由紀子先生
壺内 よう子先生



「紫苑祭では、毎年テーマに合わせた作品を展示しています。今回は自分たちの憧れの世界を洋服で表現しました。準備を通じて部がまとまっていくんですよ。先輩と後輩との会話が増えたとし、みんなで協力し合えるようにもなりました。部長と

「家」で料理をするときも、材料や調味料の見当がつくようになり、レパートリーが増えました。友達の誕生日には手づくりのお菓子をプレゼントしています」とも話してくれました。いつか彼女たちがつくる家庭には、きつと心も温まる食卓が整えられていることでしょう。

大 所帯の家庭科部は曜日を分けて活動中。伺った日は、お菓子のブラウニー作りに明るい声が飛び交い、チョコレートの甘い香りが調理教室いっぱいに漂っていました。紫苑祭を終えた後はみんなで話し合い、マフインやクッキー、パンづくりなどに挑戦しています。

また、「家で料理をするときも、材料や調味料の見当がつくようになり、レパートリーが増えました。友達の誕生日には手づくりのお菓子をプレゼントしています」とも話してくれました。いつか彼女たちがつくる家庭には、きつと心も温まる食卓が整えられていることでしょう。

料理の腕も部のまとまりも
楽しい雰囲気の中で上昇中!

クラブ活動の成果

高等学校 & 中学校

2012.8～2013.1

高等学校

陸上部

【全九州高等学校新人陸上大会】

●10月12日～14日・鹿児島県
●200m 3位 上野 希 ●300m 3位 山下 未来
●走り幅跳び 6位 中村 文音 ●800m 8位 清水 真帆

【第67回 国民体育大会】

●10月6日・岐阜県 ●少年共通 800m 由水 沙希

【全国高校駅伝】

●10月28日・福岡県 ●福岡県予選 優勝 1時間9分28秒
●11月18日・福岡県 ●全九州大会 優勝 1時間8分57秒
●12月24日・京都府 ●全国大会 4位 1時間8分14秒
※詳しくはp.15をご参照ください

ハンドボール部

【平成24年度 第8回FHBAカップ】

●11月4・10・11日・福岡県 4位

【平成24年度 福岡県高等学校ハンドボール競技新人大会】

(兼 第41回 全九州高校選抜ハンドボール競技選手権福岡予選会)

●12月15日・福岡県 準優勝

バスケットボール部

【第67回 国民体育大会】

●9月30日～10月2日・岐阜県 準優勝 篠田 美玖 出場

ソフトテニス部

【福岡県高等学校ソフトテニス新人県大会】

●10月20日・福岡県 ●団体戦 ・ベスト8

テニス部

【福岡県高等学校テニス新人大会中部ブロック予選】

●9月15日～23日・福岡県
●シングルス 3位 矢吹 恵梨 ●ダブルス 2位 矢吹 南ペア

空手道部

【福岡県高等学校空手道新人選手権大会】

●10月13～14日・福岡県 ●女子団体組み手 ・ベスト8

文芸部

【第27回全国高等学校文芸コンクール】

●12月15日・東京都(表彰式)
・詩部門 優良賞 長 ナナ子
・短歌部門 優良賞 宮崎 萌/長 ナナ子
・俳句部門 優秀賞 佐藤 美貴
・文芸部誌部門 優秀賞 「いさらみ」第54号

百人一首部

【第2回 九州地区高等学校小倉百人一首かるた競技大会】

●10月28日・長崎県 準優勝 福岡県A

【第3回 全国かるた競技長崎大会】

●11月4日・長崎県
●B級 3位 橋本 紗英 ●D級 2位 藤瀬 ひかる

放送部

【第27回 福岡県高等学校総合文化祭放送コンテスト福岡県大会】

兼 第34回 九州高校放送コンテスト鹿児島大会福岡県代表選手選考会

●11月3日・福岡県
●朗読部門 入賞 永尾 沙繪・渡邊 柚里
●アナウンス部門 2位 豊島 明子 3位 坂本 麻沙子
4位 玉川 恵 入賞 嘉村 結香
(九州大会出場)

生物部

【第45回 福岡県生徒生物研究発表大会(福岡地区大会)】

●11月4日・福岡県
・優秀賞 「生活排水による環境汚染について」
原生 岩、本 采子、角田 夏美(県大会出場)

琴曲部

【第27回 福岡県高等学校総合文化祭第15回 日本音楽部門 福岡県大会】

●11月10日・福岡県 優秀賞

中学校

剣道部

【福岡市中学校剣道大会】

●11月17日・福岡県 ●団体戦 5位(県大会出場)

【大学&短期大学部】 OGと上司に伺う「筑女生のこと」

就職の筑女

The Success Story of Finding Work

vol. 24

本学卒業生をご採用いただいている企業へ伺うこのコーナー。今回は、グループ会社を再編し、平成24年4月に新たなスタートを切った株式会社デンソーセールズで活躍中の本学OG、奥寺さとみさん、そして上司の近藤宗男さんにお話を伺いました。

株式会社デンソーセールズ
九州支社 管理部
課長 奥寺さとみさんの巻



平成2年、短期大学英文科卒の奥寺さん。「仕事は大変だけど、一つ一つクリアしていく楽しさも、新しい組織のペースを構築した上で、九州らしさを創りあげていきたいとの思いで、日々がんばっていらっやいます。

4つの部門を束ねつつ 新たな重責も担う毎日

9 つの国内販売会社が
統合された昨年4月

から、奥寺さんの毎日は、これまで以上に多忙を極めるようになりました。人事、経理、総務、経営企画を束ね、全体を俯瞰的に見ながら副社長のサポート役として実務を動かすという従来の仕事に加え、新しい組織における人事、経理、総務の仕組みづくりにおいても重要な役割を担っています。全国の管理責任者が集まる会議などで月に幾度も上京する中、日常の業務を管理する八面六臂の活躍です。

学生時代は人としての 芯の部分を大切に

そんな奥寺さんですが、
学生時代のことにな

ると、「とりあえず働こう、という感じでした」と苦笑い。「入社後に社の方針や考え方を知り、社員を大切にしてくれるこの会社が好きになったんです」とのこと。筑女の先輩へは「具体的なビジョンがない人は、できるだけいろいろな会社の考え方や社員の姿を見て、良いと思えるか否かで判断したらいいのでは」とアドバイスをいただきました。

上司の方に
伺いました

「変化できる人」が これからの人財です

地域にも社員にも
「やさしい会社」を目指し
市場に密着しつつ
新たなビジネスモデルを

国内外で生産、販売、サー
ビスを展開するデン
ソーグループの中で、デン
ソーセールズ九州支社は全九
州と沖縄におけるカーケア部
品の販売を行っています。よっ
て、九州・沖縄の市場に密着
した企業になることが第一の
ミッション。新たなビジネスモ
デルの創出と両輪で、地域に
も社員にも「やさしい会社」
を目指しています。

そのためにはインフラの整備が欠かせません。奥寺さんには社の基軸となる新たな仕組みづくりの主要な人財として活躍してもらっています。現場の実情を踏まえて九州の意見を伝え本部と調整を図る能力と案件に応じた引き出しの豊富さに、これからますます期待するところ

です。

このように、我社では女性が活躍する場が増えてきました。その中で重視するのは、人間力。礼儀にはじまる基本動作もその一つです。そこで採用にあたっては、まず人間力を見極めるのですが、筑女生に総じていえるのは、その素養があり、しっかりしているとい



「意欲がある人を、そのまましておくことは罪」と語る近藤さん。

九州支社 副支社長 近藤宗男さん

う印象です。

ところで、面接の際に、多くの学生さんが「在学中にしておくべきことは？」と聞かれます。その答えは、勉強、クラブ活動、ボランティア、旅行など何でも構わないので、学生時代にしかできないことを精一杯しておくことです。また、社会人になって真っ先に試されるコミュニケーション能力を高めるためにも本を読み、ぜひ正しい日本語を身につけておいてください。さらに、今望まれるのは、「変化できる人」。我社は、既成のものを是とせず、変化をためらわず、前向きに変化できる人へ働く場とチャンスを用意しています。

今回の職場

- 社名：株式会社デンソーセールズ
- 設立：平成24年4月1日(国内9販社を統合)
- 資本金：1億7,500万円
- 事業所数：国内8支社(57拠点)
- 従業員数：1,800名(九州支社210名)
- 平成24年度新卒者採用実績：43名(九州支社6名)
- Webサイト <http://www.denso-sales.co.jp>

卒業生からの手紙

vol. 6

切磋琢磨したあの時代は私にとって大きな財産です

高校OG・久世由美子さん(ロンドンオリンピック日本代表コーチ)

従姉の誘いで入部した

水泳部が自分の原点

筑

紫女学園高校の水泳部に

入ったきっかけは、東京五

輪に出場した従姉、山本憲子さ

ん(現姓「浅倉」)の誘いでした。練

習で切磋琢磨したこの時代は、

私の大きな財産になっています。

五輪の夢を叶えた人、頑張った

けれど届かなかった人。そういう

人達を間近に見られたことは、

代えがたい経験でした。何がど

う違うのか、何をすればよいのか

を考え、次のステップに移ってい

く。その原点は、ここにあると

思っています。

スイミングクラブを創設し

松田丈志選手と二人三脚

筑

紫を卒業して旭化成に入社し、現役引退後に結婚。ある頃、地元延岡市で子ども

の水難事故が数件あり、「泳

進しましたが、もう一歩でした。



高校1年生の時、大分県奈多海岸でのひとコマ(左から2番目が久世さん)。

久世さんの思い出の1枚

けない子どもをなくそう」と有志でボランティアの「東海(とうみ)スイミングクラブ」をつくりました。

東海スイミングに4歳で入った

松田丈志は、小学3年生の時、

九州大会で8位に入賞しまし

た。満面の笑みを浮かべた松田

を見て、私は選手として育てる

ことにしました。その後、中学日

本、高校日本になりました。

そして、2004年、念願のオ

リンピック出場。大学生の松田

は、アテネ五輪の代表になりま

したが、メダルを取れませんでした。

それから松田と二人して、

「2008年の北京では絶対

にメダルを取る」を合言葉に精進

しました。その結果、「これが自

分色のメダルです」北京五輪で

銅メダルを獲得。2012年の

ロンドン五輪では、「怪物フェルプ

スを倒し、金メダルを取る」とい

う気持ちで、これまで以上に精

進しましたが、もう一歩でした。



水泳部の練習風景(筑紫女学園プールにて)。

でも、2大会連続の銅メダルは、松田丈志は間違いなく世界のトップスイマーであることを証明しました。また、この大会では、

400Mメドレーリレーで日本

男子初の銀メダルに輝き、北島

康介選手を「手ぶらで帰らせな

い」という松田のインタビューが

反響を呼びました。

卒業から半世紀を経た今も

気持ちはあの頃と同じ

これまでには、困難もあり

ました。スポンサーが見つ

からず、引退も考えた松田。そ

んな時でもあきらめず、練習だ

けは続けました。誰かが見てく

れています。地元延岡を発祥と

するコスモス薬品さんが手を差

し伸べてくださいました。宮崎

県の企業12社の皆様が、支援ス

ポンサーとして応援してくださ

いました。

今後の道筋は、まだ決めてい

ませんが、筑紫を卒業してはや

半世紀。気持ちはあの頃と同様

に青春でいようと思います。終

わりに私の好きな言葉を伝え

て、皆様へのエールとします。

「夢なきもの理想なし。理想

なきもの目標なし。目標なきも

の実行なし。実行なきもの成果

なし。成果なきもの喜びなし。」

[Profile] くぜ・ゆみこ(旧姓:豊田)
 ●1965(昭和40)年卒(高等学校)後、旭化成で競泳実業団の選手として活躍。1979年東海スイミングクラブを設立し、ロンドン五輪の日本代表チームコーチに就任。(株)コスモス薬品所属。

東海スイミングクラブへの
 支援・寄付金等のお問合せ

株式会社estmare
 エストマール
 とろみ
 東海スイミングクラブ事務局

TEL 0982-20-5610 FAX 0982-20-5639

ロンドンオリンピックでのメダル獲得後、松田丈志選手(写真右)と撮影。

支えびとさん、登場!

vol. 3

親子2代で、筑女の校舎を支えてきました

崎山則幸さん(中学・高等学校/営繕事務職員)

今年で56歳になりますが、実は中学1年生の時から、筑紫女学園にはお世話になってます。父が中高の営繕、母が幼稚園開園時から用務の職員をしていたので、当時から私も手伝っていました。

営繕の仕事を通して、校舎の移り変わりを一部始終見てきました。旧校舎が取り壊される時、「親父と一緒に、脚立と工具箱を持って上がるのに苦労したな」と次々と蘇る思い出とともに、校舎中を写真と記憶に収めました。それをもとに、檜の木材を使って、壁板一枚から手作りし、2カ月かけて旧校舎の模型を制作しました。現在、被服教室の横に飾ってあります。

新校舎は、広いエントランスロビーや、すべて繋がっている回廊が気に入っています。脚立も運びやすくなりました。中でも、茶室と庭が一望できる3号館と4号館を結ぶ渡り廊下からの眺めがお勧めです。

新校舎も建設されて10年に近づき、修繕が必要になってきました。修理をしながら、「親父だったらどうしたかな」とそんなことを思いながら、これからも愛情を持って校舎と向き合っていきます。



校舎への愛着は人一倍!いつもみなさんが快適な生活を送れるように心がけています。



注目の学園ニュース

CJ ホットピックス

1

高校

最終区の3人抜きで4位に！ 16回目の入賞を果たした 「女子第24回・全国高校駅伝」

バーに赤い帽子を被った筑女の応援団が沸きました。最終区のたすきをもらった時点で7位。そこから3人抜いて1時間8分14秒の記録で、4年振りに4位入賞を果たしました。

「私たちの目標は都大路出場ではない。都大路でいかに結果を残すか」「先輩達が築いて来た伝統を崩してはいけない。継承していかなければ」と言葉には出しませんが胸に秘めた思いがありました。そんな思いが、結果として個々のレベルを上げることにつながりました。

特に今年は、昨年チームの中心として貢献した大きな柱を欠き、不安な面もありましたが、昨年よりもチームの層の厚さを感じました。また、走れなかった選手達も、献身的にチームのために尽くし、支え、選手達と同じ気持ちでレースに臨

みました。まさに、チームの総合力が入賞という結果へと導きました。

都大路後、先生方、友人、地域の方々から「良かったね」「感動したよ」という言葉をたくさんいただき、選手達の努力が報われたような気がしました。今回の結果に決して満足することなく、更に精進し、今年の大会では4度目の「日本一」に挑戦し、昨年以上の感動と喜びと元気を応援してくださるすべての方々に与えることが出来るようなレースをしたいと思えます。

最後になりましたが、選手達が苦しく、つらい時に支えてくださったご家族の皆様、選手達の日常生活、食生活、治療をサポートしてくださった多くの関係者の皆様、そして何より、この筑紫女学園の生徒諸君と、多くの学園関係者の皆様に支えられ応援していただいたことが、選手達の頑張りになったと思います。心より御礼申し上げます。今後ともご支援とご声援をよろしくお願いいたします。

【高等学校・陸上部監督／岩元雅輝】



4位でゴールする園田選手。7位でたすきを受け取り、3人抜いてゴールした瞬間、会場は歓喜の渦に包まれました。

LOOK BACK ON THE RACE!

- 第1区** 由水沙季(2年) 持ち前のスピードを活かし、世界ジュニア日本代表の走りを見せつける庄巻の走りでの区間賞を獲得！
- 第2区** 山下未来(2年) 冷静な判断でレースを運び、次の1年生に走りやすい位置でたすきをリレー！
- 第3区** 檜崎夏美(1年) 県および全九州大会での区間賞の走りは健在、若干の足の痛みを抱えながらも、1年生とは思えない落ち着いた走りでの第4区に繋ぐ。
- 第4区** 清水真帆(2年) 大会3日前にメンバーに抜擢。多少緊張はあったものの、得意の下り坂で繁さの役割を十二分に果たし、アンカーへ。
- 第5区** 園田聖子(3年) 最初で最後の高校駅伝「走れなかった他の3年生の分まで」の気持ちでラストでの凄まじい走りに結果！

2

学園

「被災地からの報告」 3・11東日本大震災後の状況 「福島めばえ幼稚園教諭による講演会」

太宰府と誓固の 両キャンパスで 震災被災地の現状を講演

筑 紫女学園では、東日本大震災の復興支援の一環として、被災地で幼児教育・保育の支援に携わっておられる先生方を対象に、心理ケアと保育研修の講座が受けられる「子どもと保育研究所 ぶろほ+筑紫女学園幼児教育サポートプロジェクト」を発足しました。

そしてこの機会を活かして被災地の現状をより広く伝えるために、当講座を受講された伊藤ちはる先生(福島めばえ幼稚園(福島市)主任)に「被災地からの報告?」と題した講演を、各NPO法人団体のご協力のもと、太宰府と誓固の両キャンパスで行っていただきました。

講演会では、管理職の立場から、震災直後のルール作り、園児の遊びの変化、園内の除染作業、震災で気づいたことなどを熱心に話されました。前例がなく、情報も不確かな

混乱の中、園児、保護者、教諭の安心をどうやって守っていくか、具体的に何をすればよいか、葛藤しながらも一つの課題と向き合い、「あれもこれもできない」から「できることをやろう。どうせやるなら楽しく」と考え方をプラスの方向に変えて、少しずつ前に進まれたそうです。

講演を通して、福島は余震の度に、「また原発が爆発するのでは…」という恐怖と緊張に今もなおさらされている現実が伝わってきました。そして、震災の有無に関わらず、目の前の子どもたちを見て、いま何が必要かを考えるという「保育の真髄」は変わらな



震災直後の写真や園児たちが書いた絵を紹介しながら、熱心に講演されました。



パラ・バドミントン大会で優勝
11月3日、韓国で開催されたアジア大会において、人間科学部社会福祉コース2年の豊田まみ子さんが、アジアチャンピオンになりました。



「基本理念と教育目標」発表会
9月11日、自己点検及びFD活動の一環として、「学生の社会的・職業的自立」への支援体制について発表会を開催しました。



ちくしの高年大学で講演
10月2日、文学部発達臨床心理学科4年の古家英理さんが、筑紫野市生涯学習センターで震災ボランティアの体験を発表しました。



筑紫祭
10月27・28日、筑紫祭を開催し、両日合わせて2,500人を越えるお客様をお迎えしました。ご協賛やご協力、有難うございました。



公式facebookページ開設
9月20日、筑紫女学園大学のfacebookを開設。「いいね！」とたくさんの方々に言っていただけ情報を発信しています。



ソフトテニス部1部昇格
10月20・21日、九州学生ソフトテニス秋季リーグ戦において、念願の1部昇格！20年振りの1部リーグ復帰となりました。



学生証の新デザイン決定
12月21日、学生証のICカード化に伴い、新デザインを学生投票で決定しました。平成25年度から切り替わります。

写真で見る筑女生の「今」

CJ フォトピックス

大学・短期大学部

University Junior College



東日本大震災ボランティア報告会
10月2日、2012年8月のボランティア活動について報告し、「震災を風化させない」「復興支援の活動を継続する」と伝えました。



留学成果報告会
10月25日、クイーンズ大学、西シドニー大学、ニューヨーク州立大学へ留学・派遣した学生の留学成果報告会を行いました。



筑女フィル定期演奏会
12月25日、大野城まどかびあホールにおいて、筑紫女学園大学フィルハーモニー管弦楽団の第6回定期演奏会が開催されました。

Webサイト情報

● 大学・短期大学部 <http://www.chikushi-u.ac.jp/>

facebook



筑紫女学園大学公式facebookページを開設しました。「いいね！」登録者数も600を超え、着実に筑女ファンが増えています。

▶ 今後の予定 【 大学・短期大学部 】

日程	開催内容	開催場所	日程	開催内容	開催場所
2月14日(木)	一般入試、社会人入試、外国人留学生入試、学内進学入試(院)	太宰府キャンパス	3月15日(金)	卒業式(短)	太宰府キャンパス
2月14日(木)	編入学試験(大)、社会人特別入試(大・短)	太宰府キャンパス	4月 4日(木)	入学式	福岡国際会議場
3月 2日(土)	一般入試(大・短)	太宰府キャンパス	7月 下旬	オープンキャンパス	太宰府キャンパス
3月11日(月)	自己推薦入試(大・短)	太宰府キャンパス	8月 月上旬	オープンキャンパス	太宰府キャンパス
3月14日(木)	修了式(院) 卒業式(大)	太宰府キャンパス			



写真で見る筑女生の「今」

CJ フォトピックス

高等学校・中学校



High School
Junior High School

母校で成人式
1月13日、仏前で厳かに、華やかに。講堂にて同窓会を兼ねたオリジナルの「成人式」を行いました。新成人の卒業生と教員、約180名が集合しました。



中学体育祭

10月24日、九電記念体育館にて「合流(ゴール)」のスローガンのもと、競技種目や係の活動に精一杯取り組みました。



中学入試説明会

10月27日、生徒がガイド役になって、学校生活や学習について説明。校舎案内も全て生徒が行いました。



芸術鑑賞会

11月5日、ピアニスターのHIROSHIさんをお招きしました。昭和32年に精華会から寄贈されたスタインウェイピアノを使って演奏されました。



職業を知ろう講演会

11月10日、中学3年生を対象に開催し、「弁護士」「臨床心理士」ほか、様々な分野で活躍の方々にご協力をいただきました。



報恩講

11月30日、親鸞聖人のご命日に際し、聖人の徳をたたえ、恩に報いる法要を宗教部の生徒による雅楽の演奏とともに行いました。



歳末出陣式

11月30日、高校吹奏楽部の生徒が、福岡市役所周辺での年末年始特別警戒・交通安全県民運動出陣式とパレードに参加しました。



父母教師会国際理解委員会

12月14日、オーストラリアからの留学生に日本文化を体験していただくため、茶道・華道・浴衣の着付け教室を開催しました。



高校修学旅行

12月15日～19日、高校2年生が5つのコース(関東・関西・北海道・韓国・シンガポール)に分かれて修学旅行を催行しました。



中学弁論コーラスコンクール

12月20日、講堂にて弁論コーラスコンクールを開催し、各クラスの代表者による弁論、全クラスによる合唱が行われました。

Webサイト情報

- 高等学校 <http://www.chikushi.ac.jp/hsc/h/>
- 中学・高等学校 <http://www.chikushi.ac.jp/hsc/j/>

東北ボランティア研修のご報告 【アクセス】
【バナー】

研修内容やメディアに掲載された記事を紹介しています。

平成25年度入試に関するアドバイス 【アクセス】
【バナー】

入試についてのアドバイスを紹介しています。

▶ 今後の予定 【高等学校・中学校】

日程	開催内容	開催場所	日程	開催内容	開催場所
2月1日(金)	高校一般入試(前期)	警固キャンパス	3月19日(火)	修了式・終業式	警固キャンパス
2月9日(土)	高校一般入試(後期)	警固キャンパス	4月8日(月)	入学式	警固キャンパス
3月3日(日)	高校卒業式	警固キャンパス	4月中旬	中高新入生オリエンテーション	警固キャンパス
3月6日(水)～13日(水)	中学海外研修	オーストラリア	4月中旬	中学新入生研修	福岡社会教育総合センター
3月7日(木)～14日(木)			5月下旬	紫苑祭	警固キャンパス
3月14日(木)・16日(土)	高校クラスマッチ	警固キャンパス			



年長発表会
12月8日、年長さんの発表会は子ども達とクラス先生が一丸となって作り上げた劇です。みんなの堂々とした姿がとても立派でした。



オープンキャンパス

9月8日、1歳から3歳のお友達が、たくさん幼稚園に遊びに来てくれました。



誕生会

9月14日、8月・9月生まれのお友達のお誕生会です。1年に1度のお誕生会。みんな、心も体も大きくなっています！！

写真で見る筑女生的「今」
CJ フォトピックス

幼稚園



運動会

10月6日、みんなが待ちに待った運動会。お遊戯やかけっこ、リレー、親子競技、みんなの笑顔が溢れた運動会でした。



稲刈り

10月15日、1学期に苗を植えたバケツ稲。年長さん一人一人が大事に育てた稲の収穫を行いました。



竹馬作り

10月20日、お家の方に参加していただき、「自分の」竹馬が出来上がりました！子ども達は大喜びで竹馬に乗っています！



芋ほり

10月22日、1学期にお家の方と一緒に植えた苗芋。毎日毎日お水をあげて育てましたよ。できあがったお芋はさつまいもケーキを作っていました。



動物園遠足

10月30日、全園児で動物園に出掛けました。年少さんは初めてのバスに乗り、出発です！



年中発表会

12月1日、年中さんの発表会を行いました。舞台の上で、絵本に出てくる登場人物になりきり、子ども達は一生懸命頑張りました。



終園式

12月18日、2学期の終園式を行いました。みんなで2学期の楽しい思い出を振り返り、みほとけ様におまいりをしました。

Webサイト情報

●幼稚園 <http://www.chikushi.ac.jp/knd/index.php>

みてみて！げんきな筑女っ子

【アクセスバナー】



園児たちの日々の様子をお伝えしています。写真いっぱい楽しいページです！！

▶ 今後の予定 【幼稚園】

日程	開催内容	開催場所
2月 2日(土)	竹馬披露会	幼稚園
2月10日(日)	年少劇あそび会	幼稚園
2月22日(金)	ミニコンサート	幼稚園
3月 8日(金)	おわかれパーティ	幼稚園
3月14日(木)	卒園式	幼稚園

日程	開催内容	開催場所
3月15日(金)	終園式	幼稚園
4月 8日(月)	始園式	幼稚園
4月10日(水)	入園式	幼稚園
4月26日(金)	歓迎遠足	未定
5月 中旬	オープンキャンパス	幼稚園

公開講座
レポートインドを「ジェンダー」の
視点で見ると?

～アジア塾:アジアの中のジェンダー(性差)～

10月18日(木)、福岡市天神にあるアクロス福岡において、「アジア塾:アジアの中のジェンダー(性差)」を開催しました。講師は文学部アジア文化学科の喜多村百合准教授です。韓国、中国、インドをジェンダーの視点からより深く学ぶという目的で開催され、今回は、「インドの地域ガバナンスを変える女性議員」についてでした。インドをジェンダーの視点で見ると、花嫁が花婿へ持参金や家財道具を贈る「ダウリー」やヴェールを被る女性隔離の「バルダー」という慣習があり、インドの女性の地位は相対的に低いです。1975年の「国際婦人年」で女性の地位低下が指摘され、1992年に憲法改正を

行い、地方分権化とともに議席の3分の1に女性枠が設けられました。第11次5カ年計画(2007-12)では、ついに初めて女性が経済・社会開発の担い手と認識されました。少しずつジェンダーの格差が是正されてきているインドについて、もっと知らなければならぬということが今回の講座で分かりました。(大学/文学部アジア文化学科2年 副島彩花さん)



Professors' Works ～先生方の著作紹介～

『Eine Kleine Kaffeepause
(韓国語版)』

● 裒 海善 (Haesun Bae) 訳

ドイツ出身のチェロ奏者の音楽生活と係わるエピソードやカルチャーショックなどを紹介



ムンイェリム(韓国)刊
9,000ウォン
2012年9月発行

『日本の教育の歴史を知る』

● 松本 和寿 他3名著

近世以降の日本の教育を、各時代の歴史状況を踏まえ多様な角度から分析した一書



青簡社 刊
2,100円
2012年9月発行

筑紫女学園からの
お知らせ

理事会・評議員会

就任

● 顧問 吉野 和夫
(平成24年6月1日から平成27年3月31日まで)

人事

退職

● 教育職員 藤原 正博
大学(文学部) 発達臨床心理学科教授
(平成24年8月31日付)

大学(文学部) 日本語日本文学科教授 木村 政伸
(平成24年9月30日付)

採用

● 教育職員 竹熊 真波
大学(文学部) アジア文化学科教授
(平成24年10月1日付)

おめでとございます

● 平成24年秋の叙勲
瑞宝小綬章受章 石橋 美恵子
大学名誉教授

本学園大学名誉教授 石橋美恵子先生は、本学の発展、フランス文学の教育研究及び社会における男女共同参画の推進等多大なる功績が認められ、平成24年秋の叙勲として瑞宝小綬章を受章されました。

寄付

左記のとおりご寄付をいただきました。
誌上、御礼とご報告をいたします。

寄付金

筑女ボランティアネットワーク
金額一、五〇〇、〇〇〇円
(大学生の東北ボランティア活動資金として)

笠 信曉様
金額五〇、〇〇〇円
(東日本大震災被災地との教育交流の資金として)

学園奨学金

嶋原 正孝様
金額五〇、〇〇〇円
中村 テーマ様
金額一〇〇、〇〇〇円
(香典返し)

寄贈

大学・短期大学部へ
日本たばこ産業株式会社 福岡支店
支店長 栗田 利昌様
スタンド灰皿 9台
中学・高等学校へ
小笠原 正行様
木版摺更紗 小袱紗 一枚

学園広告 Report

昨年度、西日本新聞広告賞で
最優秀賞を受賞した学園広告、
今年度も新たに展開

今年度の広告展開は、昨年度に引き
続き「私は、CJです。」に加え、『私たち
の「CJストーリーズ」公開中!』をテーマに、
新聞広告、電車広告、ホームページを中心
に掲載しました。

また、昨年度西日本新聞に掲載した広告
シリーズが、「読者が選ぶ西日本新聞広告
賞 地域のチカラ 最優秀賞」に
選ばれました。来年度も新たな広告展開
で、学園の魅力を最大限に引き出して
いきます。

